

株主通信

第77期

2017年1月1日~12月31日



威高日機装(威海)透析機器有限公司

中国透析市場の成長

当社は、中国の医療用具メーカー最大手、威高グループの威高血液浄化製品有限公司(以下、「威高血液浄化」と)、中国における血液透析装置の製造、メンテナンスを行う合弁会社「威高日機装(威海)透析機器有限公司(以下、「威高日機装」)」を2010年に設立し、透析事業を展開していますが、このたび、この事業提携関係強化ならびに提携範囲の拡大を展望し、同社へ5%(約17億円)の出資を行うことを決定しました。

近年、中国をはじめとするアジアパシフィック地域では、透析療法の医療保険制度が拡充されるにつれ、透析患者数が増加しています。中でも中国では、患者数が急増しており、数年内に米国を抜いて世界第1位になることが見込まれています。このため、当社は、中国市場を世界随一の巨大市場とみて、市場開拓に注力しています。当社のパートナーである、威高血液浄化は、中国におけるダイアライザーや血液回路をはじめとした透析用ディスポーザブル製品メーカーとして最大手です。当社の高い血液透析装置の製造技術と、良質のメンテナンスサービスを威高グループの持つ中国全土に広がる販売網や顧客ネットワークを通じて提供することで、中国においても日本と同様、高水準のサービスが提供できる、製造、メンテナンス体制を構築しています。2012年に初めて

中国で威高日機装が透析装置を出荷して以来、日機装グループの血液透析装置の販売台数は着実に増加しており、2017年度の販売台数は前期比で約20%増加しています。

日機装は、日本基準の高水準の製品・サービスを中国の成功事例をさらに発展させより広範な海外透析市場に普及させていくことで、世界の透析医療の発展にも貢献し、一層の事業拡大を目指しています。



北京・上海など5ヵ所にトレーニングセンターを設け、お客様向けに装置のメンテナンス講習を実施しています。



中国現地工場での組立風景

成長ステージに向けて、事業基盤の



代表取締役社長 甲斐 敏彦

当期の業績について

当期(2017年12月期)の業績は、受注高1,404億円、売上収益1,409億円、営業利益87億円、税引前利益83億円、親会社の所有者に帰属する当期利益51億円となりました。

工業部門では、国内ポンプ事業およびLEWA社の利益面での改善が進み、インダストリアル事業は前年同期比で増収増益となりました。航空宇宙事業においては機種入替による端境期の影響により売上収益は微減となったものの、生産効率の向上に円安のメリットも加わってセグメント利益は改善しています。

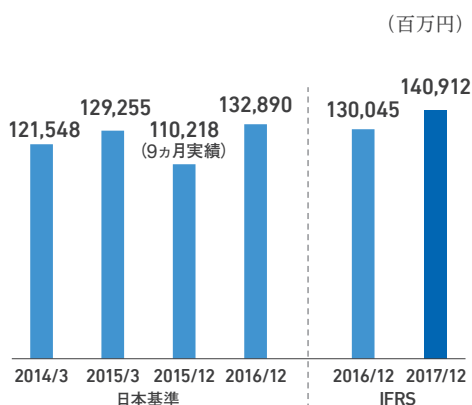
医療部門では、国内血液透析市場の停滞により装置販売が不振の一方で消耗品販売が増加しましたが、海外のCRRT事業の業績悪化に歯止めがかからず、セグメント利益は減少しました。その他、Cryogenic Industriesグループ(以下、「CIグループ」)の株式取得に関連したアドバイザー費用、宮崎新工場の立ち上げなど一過性の費用を計上しましたが、本社第二別館の売却益計上により、全社の営業利益は前年同期に比べ増益となりました。

中期経営計画3年目の取り組みについて

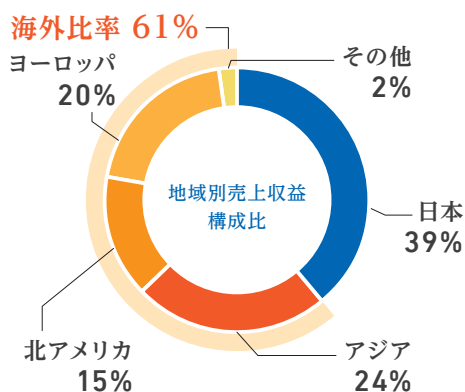
原油価格の低迷、国内医療経済環境の変化など、当社を取り巻く環境は、依然として厳しく推移すると認識しています。中期経営計画の3年目にあたる2018年12月期においては、事業成長のためにこれまで実行してきた成長投資、新事業拡大の基盤を固めると同時に、骨太な利益体質を醸成する期とし、各

業績ハイライト

売上収益



地域別売上収益(2017/1-12)



会計基準の変更について

当期より会計基準を日本基準からIFRS(国際財務報告基準)に変更しています。これにより、営業外収益・費用、特別利益・損失に計上していた科目の一部が営業利益へ算入となるなど、営業利益の概念が異なるほか、のれんの償却が停止となりました。

整備を進めてまいります。

事業分野で世界トップレベルの高度な技術を持つ企業グループであり続けるための努力をしております。昨年8月に株式取得が完了したCIグループについては、日機装とCIグループの中核技術によるクライオジェニック関連製品群をもって事業の世界展開を図ってまいります。また、前期に発生した製品の品質不適合や納期遅延の問題を深刻に反省し、技術力と生産現場のモノづくり力を強化するため人材の育成と設備の更新・増強に注力するとともに、品質管理体制の確立に取り組んでまいります。

来期は、カスケードや主翼部品の更なる出荷増や東村山工場において本格的に生産稼働し始めたファンケースライナーの出荷増を見込んでいます。

メディカル事業においては、透析医療環境の変化に応じた市場のニーズを的確に捉えた新製品・サービスの開発と、それを支える事業運営体制の再構築や、海外市場における販売体制強化を進めます。また、CRRT事業においては、グローバル販売体制の再構築、新型装置の開発体制の抜本的な見直しを行い、収益改善を目指します。

2018年12月期の見通しについて

インダストリアル事業においては、LNG需要の増加とともに、クライオジェニックポンプの継続的な引き合いが見込まれています。

航空宇宙事業においては、民間航空機の需要は引き続き堅調に推移しており、活発な引き合い、商談が継続しています。

「株主還元について」

当社は、財務健全性、資本効率および株主還元の最適なバランスを追求しつつ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現していくことを基本的な資本政策としています。

当期は前期と同じく、中間配当として1株につき8円を、期末配当として1株につき8円、年間配当総額は1株につき16円とさせていただきます。

当期実績と来期業績予想

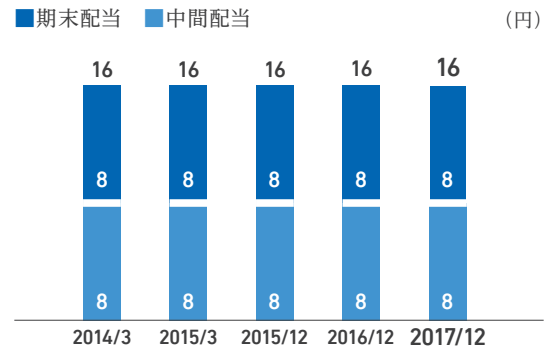
(百万円)

	当期実績 2017年12月期 (2017/1/1-12/31) [IFRS]	来期業績予想 2018年12月期 (2018/1/1-12/31) [IFRS]	前年同期比	
			増減額	増減率
受注高	140,412	162,000	21,587増	15.4%増
売上収益	140,912	162,000	21,087増	15.0%増
営業利益	8,718	10,000	1,281増	14.7%増
税引前利益	8,310	9,000	689増	8.3%増
親会社の所有者に帰属する 当期利益	5,182	5,900	717増	13.8%増

※次期業績見通しの前提としている為替レートは、108円/米ドル、132円/ユーロです。

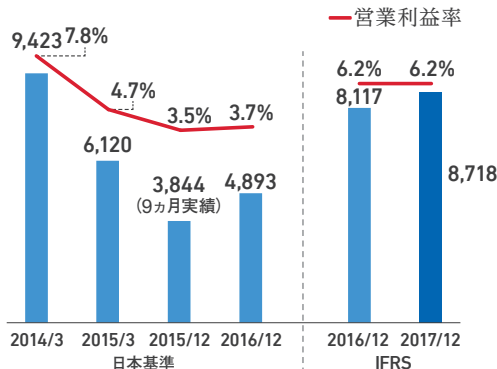
配当実績

(円)



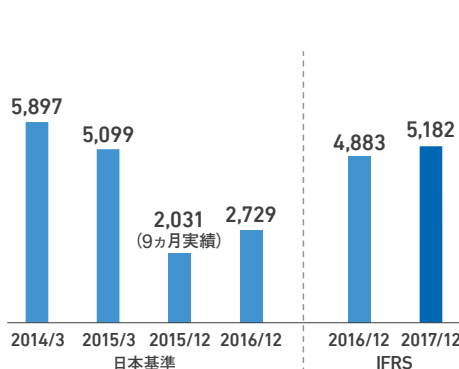
営業利益

(百万円)



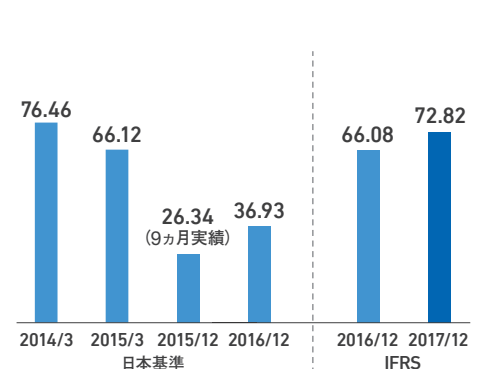
親会社の所有者に帰属する当期利益

(百万円)



基本的1株当たり当期利益

(円)



これにより、2015年12月期は2015年4月1日から2015年12月31日までの9ヵ月となっており、単純に他年度比較はできませんのでご了承ください。

事業概況

工業部門

売上収益
85,228百万円(前期比12.7%増)

セグメント利益
7,539百万円(前期比27.1%増)

部門別売上収益
60.5%

インダストリアル事業／精密機器事業

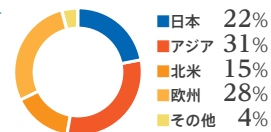
ポンプ・システム製品、精密機器製品の製造・販売・メンテナンスを行っています。



売上収益 69,559百万円(前期比16.1%増)

当期のポイント

- 上流分野の案件が少ない中、LEWA社は下流分野の案件やアフターセールスに注力、経費圧縮を継続することで収益力を維持し、業績はやや回復
- クライオジェニックポンプ事業の引き合い活況、品質不適合対策費用計上するも、技術的な解決にほぼ目途がつき、品質管理体制の強化を遂行中
- CIグループは、LNG市場の落ち込みを受け低調、LNG・水素等、事業領域の拡大に加え、地域相互補完によるグローバル展開の体制整備図る
- 精密機器事業は、スマートフォンや車載向けデバイス市況の好調を受け、販売が伸長



航空宇宙事業

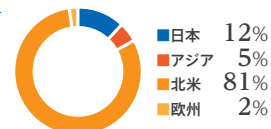
航空機の逆噴射装置用関連部品を中心に炭素繊維強化プラスチック製品の製造・販売を行っています。



売上収益 15,550百万円(前期比0.3%減)

当期のポイント

- 一部の航空機部品の価格改定や生産調整による出荷減といった厳しい環境の中、下期にカスケードの出荷が徐々に持ち直し、前期並みの水準に回復
- 2018年に予定される宮崎工場での生産・出荷開始、東村山工場での生産稼働の本格化、ハノイでの生産拠点の拡充により、旺盛な航空機需要の着実な取り組みを目指す



医療部門

売上収益
55,684百万円(前期比2.3%増)

セグメント利益
3,950百万円(前期比24.2%減)

部門別売上収益
39.5%

メディカル事業

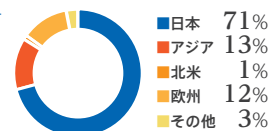
血液透析に関連した製品や、人工臓器装置などの医療機器の製造・販売・メンテナンスを行っています。



売上収益 55,684百万円(前期比2.3%増)

当期のポイント

- 血液透析事業では血液回路や粉末型透析溶剤等の消耗品販売が増加し、国内市場を下支え、海外市場では、中国や欧州での販売が伸長したが、新機種の開発費用が増加し、収益は減少
- CRRT(急性血液浄化療法)事業では、主力の中国市場における販売体制の再構築、営業・サービス機能の強化により装置販売が大幅に伸長するも、欧州他での苦戦が響き、経費増を賄えず業績悪化
- マイクロ波外科手術用エネルギーデバイス「アクロサージ」に加え、新製品開発を進め、今後の収益基盤の育成を目指す



株主様向け工場見学会開催報告

2017年11月13日(月)、株主様向け工場見学会を、当社の金沢製作所にて開催しました。今回は、ご応募頂いた44名のご希望者の中から抽選で14名の株主様およびご同伴者様にご参加頂きました。

金沢製作所は、透析装置などの医療機器を生産する「メディカル工場」と航空機部品を生産する「航空宇宙工場」から成る、当社の国内の主力生産拠点です。

当日は、中東取締役兼金沢製作所長のあいさつにはじまり、ダイアライザーの製造工程、血液透析装置の部品や装置の組み立て工程、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製航空機部品の製造現場をご覧頂きました。見学会の最後には、当社が保存・普及を支援する石川県の伝統工芸加賀象嵌と当社の技術を展示する「宗桂会館」も見学頂きました。

参加者から頂いたコメント(一部抜粋)

多くの製品や工程について詳しく丁寧に説明して頂いたので、製品についての理解が深まった。株主にとって具体的に会社を知る良い機会となるので、またこのような見学会を企画して頂きたいと思います。

透析装置の機械や部品等、普段目にする事がないので、きめ細やかな手作業や機械が行う作業など見れてよかったです。

中空糸から基盤まで自社で製造されていて驚きました。できれば新規事業への取り組みをもっと教えて頂きたいです。

普段使用している透析装置やダイアライザーがどのようなプロセスで製造されているのかよくわかり、とても勉強になりました。

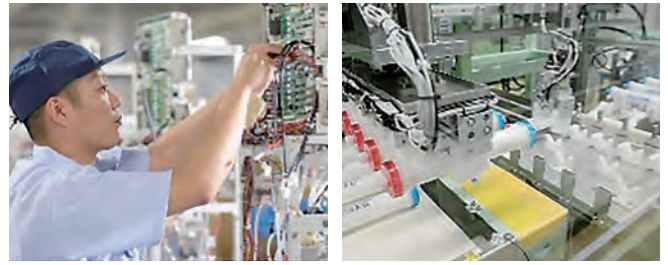
会社の見学会スケジュールにそった時間配分で十分に見学できなかった面が多々ある。

参加者の皆様から頂いたコメントを元に、今後より良い工場見学会が開催できるよう努めてまいります。

工場見学会の様子



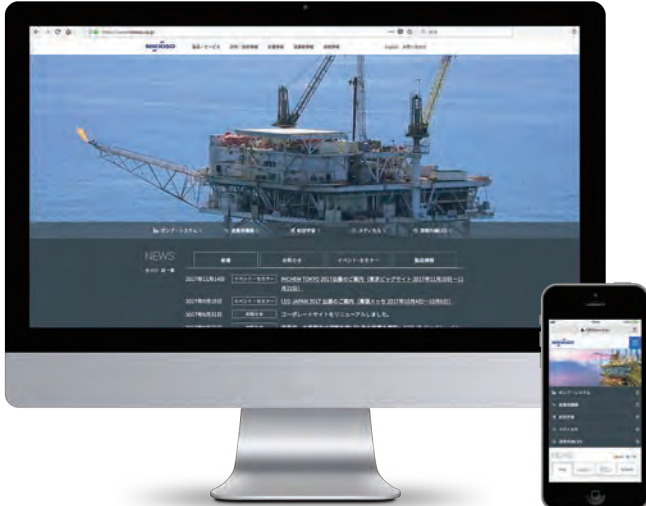
メディカル工場



航空宇宙工場



お知らせ ホームページが新しくなりました



2017年8月31日より、当社ホームページをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、ご利用される皆様にとって、より情報が探しやすい、わかりやすいサイトを目指し、全面的に刷新しました。

今後もより一層、内容の充実に努めてまいりますので、引き続きご愛顧頂きますよう、何卒よろしくお祈りいたします。

新しくなったホームページは、こちらからご覧ください

<https://www.nikkiso.co.jp/>

スマートフォン用サイトは、こちらからご覧ください→



会社概要

創業日 1953年(昭和28年)12月26日
(登記上の設立日は1950年3月7日)
資本金 6,544,339,191円
従業員数 連結7,872名(単体1,877名)

株式の状況

発行可能株式総数 249,500,000株
発行済株式の総数 74,286,464株
(うち自己株式3,098,489株)
株主数 9,586名

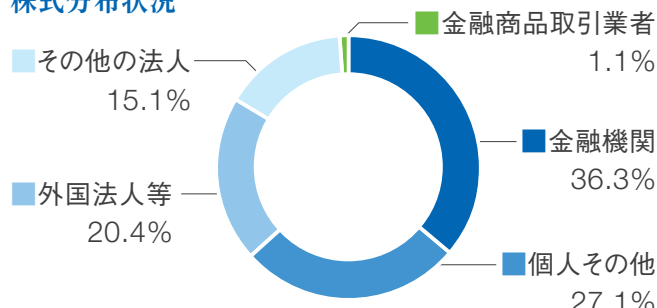
役員・執行役員 (2018年1月1日現在)

代表取締役 社長 甲斐 敏彦
取締役 副社長 中村 洋
取締役 常務執行役員 藤井 章太郎
取締役 執行役員 鹿野 直太
取締役 執行役員 中東 久和
取締役 執行役員 木下 良彦
社外取締役 中根 堅次郎
社外取締役 菊地 裕太郎

常勤監査役 伴 信彦
常勤監査役 飛田 健司
社外監査役 長友 英資
社外監査役 中久保 満昭

執行役員 長門 祥一
執行役員 小糸 晋
執行役員 山村 優
執行役員 泉 幸慶

株式分布状況



大株主一覧(上位10社)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,802	5.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,137	4.40
日機装持株会	2,528	3.55
株式会社みずほ銀行	2,500	3.51
ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	2,447	3.43
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.76
日機装従業員持株会	1,891	2.65
日本生命保険相互会社	1,650	2.31
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,622	2.27
三井住友信託銀行株式会社	1,404	1.97

※当社は、自己株式3,098,489株を保有していますが、上記大株主から除いています。
※持株比率は自己株式を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月
 基準日 定時株主総会:毎年12月31日 期末配当:毎年12月31日 中間配当:毎年6月30日
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
 <郵便物送付先> 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 <電話照会先> 0120-782-031(フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
 単元株式数 100株
 公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
 公告掲載の当社ホームページアドレス https://www.nikkiso.co.jp
 上場証券取引所 東京証券取引所(証券コード6376)

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等の取り扱い先について

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求につきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で取り扱います。お取引をされている証券会社等にお問い合わせください。

なお、特別口座にて管理されている株式については、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社での取り扱いとなります。お問い合わせ先は上記のとおりです。